



梅小路だより

京都市立梅小路小学校
校長 谷村 茂生

TEL. 371-7303 FAX371-6019

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/umekouji-s/>

令和2年度 前期学校評価 特集号



学校教育目標

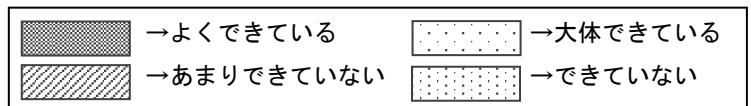
自ら学び考え、行動する、「生きる力」を身に付けた子どもの育成

くめざす子ども像

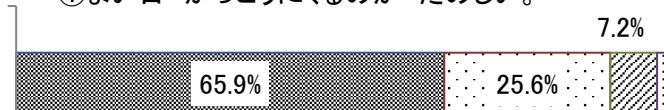
- 探究する子ども
- 考えぬく 子ども
- 社会とのつながりを大切にする 子ども
- 協力して活動する 子ども
- 運動やスポーツを楽しむ 子ども

前期学校評価アンケートにご協力いただき誠にありがとうございます。集計結果について報告いたします。

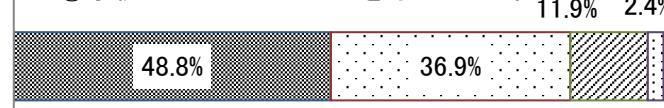
子どもたちへのアンケート



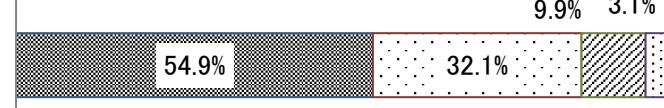
①まい日 がっこうにくるのが たのしい。 1.4%



③学校のルールやマナーを守っている。 11.9% 2.4%



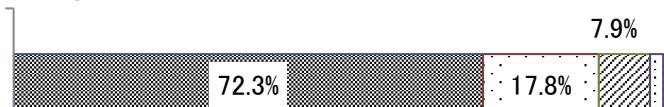
⑤進んで学習に取り組んでいる。 9.9% 3.1%



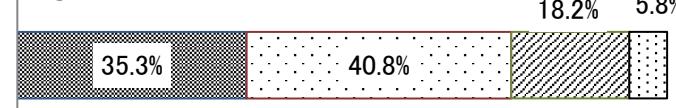
⑦係や当番活動など、自分の役割を知り、最後までやり遂げている。 6.1% 1.0%



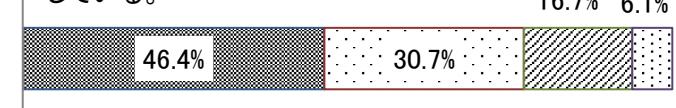
⑨お家の人と よく話しをしている。 2.1%



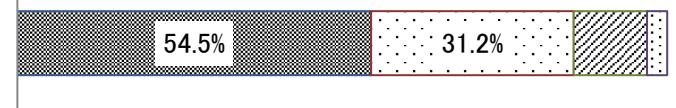
②自分の思いや考え方をはっきり話している。 18.2% 5.8%



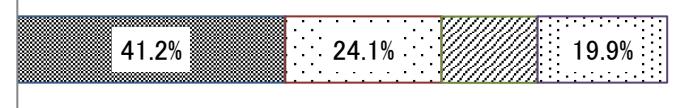
④規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)をしている。 16.7% 6.1%



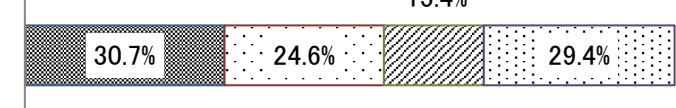
⑥学校や家、地域で進んで挨拶をしている。 11.3% 3.1%



⑧進んで家でも読書をしている。 14.8%



⑩休みの日に地域の活動や行事などに参加している。 15.4%



児童アンケートについて

10項目中、8項目がほぼ80%以上の肯定的な回答であるが、肯定的な回答が大きく減少している項目が二つある。アンケート項目⑧「進んで家でも読書をしている」の「よくできている」が昨年度比14ポイント減少し、「よくできている」「できている」合わせた回答も65%と低い。アンケート項目⑩「休みの日に地域の活動や行事などに参加している」は肯定的な回答が昨年度比18ポイント減少している。アンケート項目⑧は、コロナウイルス感染防止対策により学校図書館の利用や例年取り組んでいる読書に関する取組の遅れが一つの原因と考える。日頃の授業の中での図書の積極的活用や、教室ですぐに本が取り出せるようにする等、読書が身近に感じられるような取組を行っていきたい。また今行っている朝読書で落ち着いて読書にひたる時間を保障し大切にする。現状の取組を継続しつつ、児童が読書に興味を持てるような取組、例えば図書委員会が、面白い本の紹介を図書室前に掲示したり、読書週間を利用して、教員がお勧めの本の読聞かせを行ったりするなどの取組を検討していく。

アンケート項目⑩は、コロナウイルス感染防止対策の為、地域の行事が実施できないことが大きな原因の一つと考える。コロナ禍で、仕方がない結果ではあるが、学校としてPTA活動や地域の行事等がある場合は、児童・保護者への周知を確実に行うとともに、できるかぎり子どもたちに、参加するように声かけなどをしていきたい。

アンケート項目①「毎日学校に来るのが楽しい」は、92%の児童が肯定的にとらえているものの8%の児童がそうではないと回答している。学校生活に不安を感じている児童がいることを教職員一同しっかりと受け止め、一人一人の子どもたちの思いに寄り添い、子どもたちの様子や表情をよく見取り、友達とのトラブルを消化しきれていなかったり、学校生活の中で悩みをもっていたりしていないか、こまめに声かけや励ましをすることが改善につながると考える。

また、年2回実施しているいじめアンケートでは、嫌な思いをしている児童について把握し、担任が聞き取り、解決に向けての対応をしている。

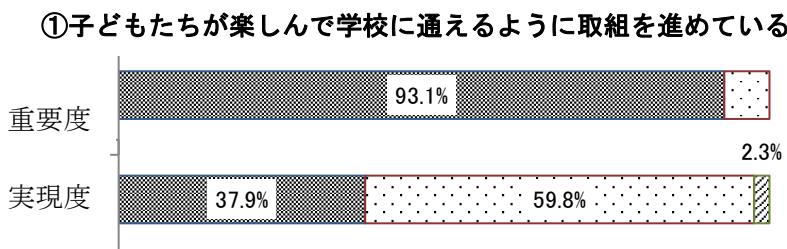
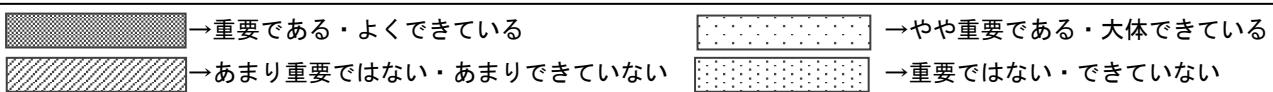
他にも学習面でのつまづきにより学校が楽しくないと感じている児童もいると考えられる。一人一人の学習面でのつまづきをしっかりと把握して、授業の中で、またはチャレンジAの時間などを使い個別に支援していく。



保護者アンケート

学校教育について

項目①～⑦までは、学校の取組に対して、項目⑧～⑭までは、ご家庭での子どもたちへの接し方についてお聞きしたものとなっています。また各項目の上段のグラフが重要度（どれだけ大事だと思っているか）の結果を、下段のグラフが実現度（どれくらいできているか）の結果を示しています。



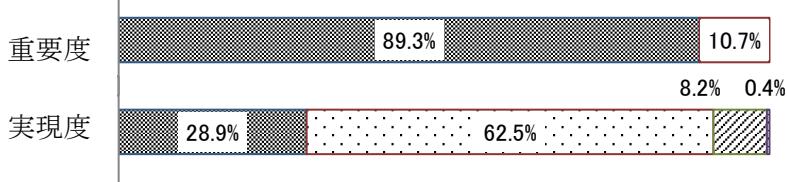
保護者アンケートの学校教育について

アンケート項目の重要度で特に高かった項目は、
①「子どもたちが楽しんで学校に通えるように取組を進めている」

②「自分の思いや考えがしっかりと言えるように取組を進めている」

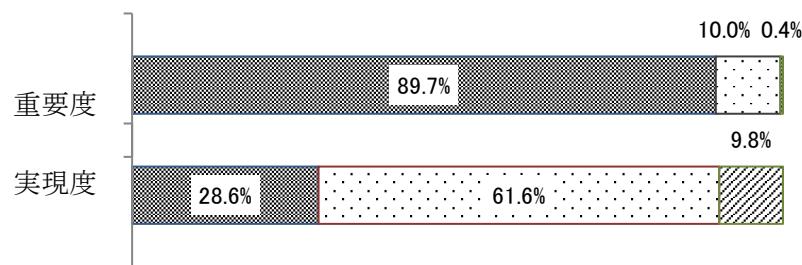
③「ルールやマナーが身につくような言葉かけや取組を進めている」

⑤「意欲をもって学習できる授業づくりを進めている」



裏面につづきます

③ルールやマナーが身につくような言葉かけや取組を進めている。



の4つについては、100%重要だと回答をいただいている。実現度のアンケート結果は、ほぼ90%以上の肯定的な回答を頂いており、保護者の方に一定理解されていると考える。また子どもたちの学習面の状況に大きく起因する①②⑤の項目については、コロナ禍で、色々と制限のある中でも、感染防止対策をしっかりと行いながら、教職員が前向きに、児童の興味関心に沿った授業の工夫等をしてきたことへの理解をいただき嬉しく思っている。

アンケート項目③についても、例年肯定的な回答が多く、ルールやマナーをしっかりと守って生活できるところが梅小路小学校の子どもたちのとてもよいところだと思っている。今後も規範意識がしっかりと根付くように、そのことがなぜいけないのか、どういうことにつながるのかということをしっかりと話し、子どもたちの心に届く指導を心がけたい。

アンケート項目⑦「自ら進んで気持ちのよい挨拶ができるような取組を進めている」では、肯定的な回答が昨年度比3ポイント減少している。保護者アンケートにも「地域の方に元気のよい挨拶ができていない」との自由記述があった。挨拶の必要性や、気持ちの良い挨拶の仕方についても随時、子どもたちに指導していく。また12月の下京中学校ブロックで行う児童会・生徒会活動による挨拶運動も実施し、引き続き挨拶の励行に取り組んでいく。

保護者アンケート家庭教育について

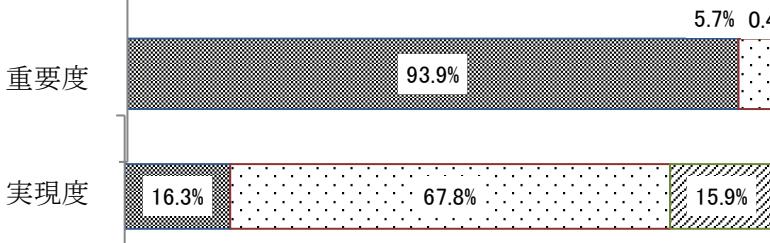
特徴的なこととして、アンケート項目⑬「家庭での役割（お手伝いなど）を与え、最後までやりとげられるようにしている」は肯定的な回答が前年度比11ポイントも増加した。これはコロナ禍で、外出することが減り、家の中で過ごすことが多くなり、親子で一緒に過ごす時間が増えたことが要因と考える。このことは家庭でも協力し合いながら生活することの大切さについて気づくことができたよい機会であったのではないかと考えている。



保護者アンケート

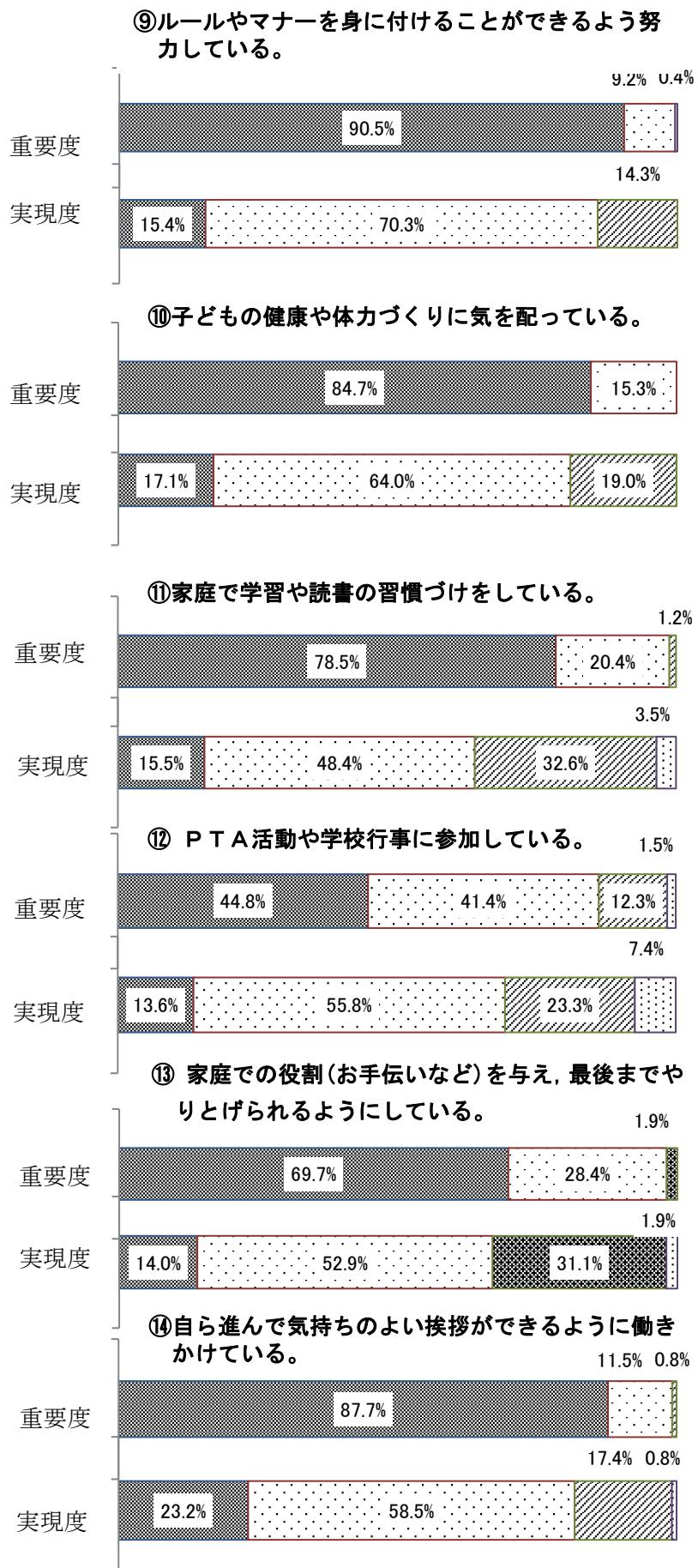
家庭教育について

⑧子どもの思いや考えをしっかり聞くようになっている。



保護者アンケート自由記述欄より（抜粋）

- ・「毎日、学校へ元気に行っている姿を見て、学校生活が充実しているのだなと感じている」
 - ・「コロナという特殊な状況下で教職員が色々と配慮しながら可能な限り授業等工夫して指導していることを感じている」
 - ・「コロナ流行の中、修学旅行に行かせてもらえて本当に感謝している。先生方の苦労があり子どもたちの良い思い出を作ってもらった。」
- これらの嬉しいご意見を頂いた反面、



というご意見をいただいた。「命の大切さ」については、道徳の授業や日常生活の中で、一人一人の命の尊さについて各学年の発達段階に応じた児童の心に響く題材を選び指導をしていく。またフレンドリー活動や、委員会活動、クラブ活動などで引き続き高学年の活躍できる場面を作り高学年の児童が自己有用感をもつことができるようにしていきたい。

以上学校評価の結果と考察です。梅小路小学校では、これからも学校教育目標の達成をめざして、教職員が一丸となり日々の取組を丁寧に進めるとともに授業改善に努めてまいります。

- 「コロナの影響で仕方のない部分もあるかと思うが、閉鎖的で学校内、学級内の様子がわかりにくいやコロナ禍で学習の遅れや社会的な体験ができなかったことがとても心配だ。」
- 「最近スイッチのフォートナイというネットゲームをダウンロードしている子が多い。基本は「殺し合い」無料ダウンロードで手軽にできてしまうことからたくさんの子がやっている。無抵抗の弱っている人に「死ね」と笑いながら銃を撃ちまくる子どもたちにものすごくびっくりした。学校でこのゲームの注意喚起をしてもらうことはできないか。」というご意見もいただいた。

学校での子どもたちの様子については、学校便りや、ホームページ等を使って情報の発信を充実させていきたい。また、ネットゲームについては、生活規律の面、生徒指導の面、情報モラルの面からゲームとの付き合い方を、随時指導をしていく。しかし保護者の了解のもとでゲームをしている場合があり、ゲームとの付き合い方は、ご家庭の判断による部分も大きいと考えるため、SNS やネットゲームの危険性について、保護者啓発の機会を持つことが必要だと考える。

地域の方からのご意見・ご感想

- ・学校の取組や学校行事を見せてもらったが、コロナ禍の中でも、感染防止対策をとりながらよくがんばっている。
- ・人を打ち殺していくようなネットゲーム等が、特に高学年で流行していることに対して、親がゲームを容認していることもあるかもしれないが「命の大切さ」については、学校教育でしっかりと指導をしてほしい。
- ・6年生が修学旅行を実施できたこと感謝している。
- ・コロナ禍により、例年行っている行事が通常通り出来ないことは納得がいくが、運動会や入学式など高学年が下学年の役に立てないまま中学校にいくことになり一部の児童の児童が不完全燃焼にならないか心配だ。
- ・地域の行事は、コロナ禍の影響で、今年度は、ほぼ出来ていない状況であるので、子どもの参加が下がっている点については教職員はあまり問題視する必要はないのではないか。